

第2回 田原本町基本構想審議会 議事録

1. 日 時 令和8年4月10日（金） 午前10時00分～午前11時58分

2. 場 所 田原本町役場3階 301・302会議室

3. 出席者（敬称略）

<審議会委員：出席13名>

- 上村 敏之（関西学院大学経済学部教授） ※会長
- 清水 裕子（畿央大学健康科学部准教授） ※職務代理者
- 植田 昌孝（田原本町議会議長）
- 持田 尚顕（田原本町議会総務文教委員会委員長）
- 村上 清司（田原本町議会厚生建設委員会委員長）
- 眞田 和則（田原本町教育委員会教育長職務代理者）
- 松村 宙亨（田原本町人権教育推進協議会会長）
- 酒井 茂広（田原本町農家代表者会会長）
- 中川 真治（株式会社南都銀行田原本支店支店長）
- 山田 章生（奈良中央信用金庫理事）
- 鋤田 芳嗣（社会福祉法人田原本町社会福祉協議会会長）
- 松原 香奈子（無作為抽出型公募委員）
- 川崎 聖子（無作為抽出型公募委員）

<審議会委員：欠席8名>

- 村田 稔治（田原本町民生児童委員協議会会長）
- 小林 祥孝（田原本町自治連合会副会長）
- 吉川 眞司（田原本町商工会会長）
- 服部 誠（一般社団法人田原本まちづくり観光振興機構理事）
- 小畠 秀之（田原本町医師会会長）
- 山岡 佐規子（田原本町地域婦人団体連絡協議会会長）
- 下山 千恵（田原本町PTA連合会会長）
- 鈴木 酉治（無作為抽出型公募委員）

<町側・事務局等：13名>

- 工藤（副町長 / 総合計画策定委員会委員長）
- 森恵（総務部長）

- 吉田（住民福祉部長）
- 田邊（産業建設部長）
- 森（教育部長）
- 寺井（町長公室・産業建設部・教育委員会事務局参事）
- 合田（町長公室参事）
- 扇谷（教育委員会事務局次長）
- 藤本（企画財政課長）
- 三上（企画財政課課長補佐）
- 岡田（企画財政課政策企画係主事）
- 小瀬村（一般社団法人構想日本）
- 秋元（一般社団法人構想日本 ※ウェブ参加）

4. 議 題

- （1）報告事項：住民アンケート調査報告書の補足について（資料1・2）
- （2）審議事項：第5次総合計画基本構想案について（資料3・4・5）
- （3）その他

5. 議事内容

【開会・会長挨拶】

- 上村会長： 本日の座席配置について、委員と事務局が対面する形ではなく、同じテーブルを囲む口の字型に変更した。これは、基本構想を共に創り上げる「ワンチーム」であるという意図によるものである。議論においても「I（私）」や「You（あなた）」ではなく、「We（私たち）」を主語にして、建設的な意見交換をお願いしたい。

【議題1】 報告事項：住民アンケート調査報告書の補足について

- 事務局： 資料1（調査期間の追記）、および前回要望のあった資料2（年齢階層別回収率）について説明。15歳以上を対象としたが、10代・20代の若年層の回収率が20%台にとどまる一方、60代・70代は50%を超えており、若年層よりも年齢が上がるほど回収率が高くなる結果となった。
- 持田委員： 年齢階層別の配布数を見ると、10代と80代以上の高齢者への配布数が他世代（約300通ベース）より少ないようだが、抽出基準に何らかの意図があったのか。
 - 事務局： 今回のアンケートは住民協議会への参加依頼も兼ねて発送した。これからのまちづくりを長期的に担っていく現役世代の声を重点的に聞きたいという意図から、事務局にて対象者の配分を調整した。意図的なバイアスをかけすぎた認識はないが、結果として若年層と高齢層への配布数が少なくなった。
- 持田委員： 報告書内の評価項目（満足度・重要度）について、平均値の算出根拠が分かりにくいため、「5段階評価である」旨を明記した方が良い。また、「見直し・再検討領

域」としてスポーツ・レクリエーションが挙げられているが、数値的に見れば「観光」も同領域に該当するのではないか。「商工業・観光」とまとめずに、別々に分析すべきである。

- 事務局：客観的なデータ分析の結果としてご指摘の通りである。これらの分析結果を今後の計画策定の基礎資料として十分に参考にしていく。

【議題2】審議事項：第5次総合計画基本構想案について

- 事務局：資料3（第5次基本構想案）、資料4・5（表紙デザイン案）について説明。前計画からのスリム化と分かりやすい表現を心がけたこと、まちの将来像を『わたしが関わり、みんなで育む「ちょうどいい幸福田園都市・田原本」』としたこと、基本目標と政策体系を5基本目標・15政策へ見直したことを説明。

（主な質疑・意見）

■ 住民協議会での議論の反映について

- 川崎委員：住民協議会において「稼ぐ地域づくり」をテーマに議論したが、住民主体で何をすればよいか具体的なアイデアが出にくく難航した。いきなり住民主体での実行を求めるのではなく、まずは行政からの指針や方向性の提示、中心となって引っ張る人の存在が必要だと感じた。
 - 上村会長：住民の議論はどうしても身近な細かい事業に向きがちだが、総合計画はまちの「大きな方向性」を示すものであるため、協議会での議論をうまく大きな視点に昇華させて基本構想に反映させることが重要である。

■ まちの将来像・3つの柱について

- 眞田委員：アンケートは高齢者の意見が多くなりがちだが、これからの10年を考えるなら若者や子育て世代の声を反映すべき。その意味で「わたしが関わり」という将来像は、「行政任せ」の意識を変え、当事者意識を育むものとして非常に共感できる。
- 中川委員・清水委員：将来像の3つの柱にある「未来にツケを残さない」という表現について、ネガティブな印象も受けるが、若者にもインパクトがあり、現状を広く伝える意味では挑戦的でキャッチーな良い表現である。上品な言葉にするにしても、「ツケ」という覚悟のニュアンスは残すべき。
 - 上村会長：ポジティブな言葉への置き換えも考えたが、関心を引くという意味でこのままの表現で進めたい。
- 鎌田委員：「人がつながり…」の項目にある「お互い様」という言葉は、社会福祉協議会で実施している「お互い様コーナー」の理念とも一致しており、非常に温かみのある良い表現だと感じる。
- 山田委員：将来像の方向性は良いが、「多様性の許容」や「縮充」という専門的なキーワードは、住民が自分ごととして共感しにくいのではないか。
- 松原委員：中高生などの若年層にも手に取ってもらうためには、「激甚化」「縮充」といった難しい専門用語は噛み砕くか、ふりがなを振るべき。

- 上村会長： 難しい言葉の表現は工夫が必要である。
- 持田委員： 将来像はコンパクトシティのイメージに合致しているが、アンケートで要望の多かった「買い物などの生活利便性」や「都市基盤の整備」の視点が3つの柱から抜け落ちているように感じる。「活力」の項目などに都市空間整備の要素を含めるべき。
 - 上村会長： 「活力」の中にそれらの要素が込められているという解釈で進めたい。

■ 基本目標・冊子の見せ方・デザインについて

- 植田委員・松村委員： 全体的に文字が多く、グリーンのベタ部分の白文字などは老眼の世代には非常に読みにくい。読み手が途中で疲れないよう、ポイントを絞って絵本のようになりやすくし、忙しい人でも一目で分かるインパクトのあるデザインにしてほしい。
- 清水委員： 若者のアンケート回答率が低いのは、総合計画が自分事だと思っていないためである。ポンチ絵や具体例を使って、総合計画が自分たちの困りごとの解決の土台であることを説明する仕掛けが必要。
- 眞田委員： 表紙デザイン案はA案が、土台をみんなで作るイメージがあって分かりやすい。
- 松原委員： 表紙デザインには、青垣の山並みや三輪山、楼閣など「田原本らしさ」が伝わるシンボルをシルエット等で入れるべき。
 - 上村会長： 表紙はA案をベースとし、町民が直感で田原本と分かるデザインを取り入れる方向で進めたい。
- 中川委員・川崎委員： 前半の「3つの柱」と後半の「5つの基本目標」がどうリンクしているのか、繋がりが見えない。構造が一目で分かるように「見える化」すべき。
- 山田委員： 基本目標に冠されている「共生・安心」などの『漢字2文字』の意図が不明確であり、どの分野（健康福祉等）を指しているのか分かりにくく、全体像への繋がりが見えない。
 - 上村会長・事務局： 漢字2文字は削除し、下の具体的な説明文を活かして繋がりが分かる見せ方に直す。
- 松村委員・中川委員： 構成として「総合計画の全体像」のページを基本目標より前に持ってきた方が、インパクトがあって住民の理解を得やすいのではないかと。
 - 上村会長： 全体像を先に見てもらい、そこから各論に入ってもらった構成を検討する。

■ 概要版（ダイジェスト版）の作成について

- 鉾田委員・松村委員： 50ページの冊子では全世代は読まない。パッと見て分かる「概要版（ダイジェスト版）」の作成が大変重要である。
- 眞田委員： 全町民に配布するため、A3二つ折りの概要版を作るべき。見開きに大きな木を描き、幹に「3つの柱」、枝に「基本目標」を配置する。その木の下で、子ども、高齢者、農業をする人、障害者、外国人（ヒジャブを被った人等）などが共に活動している

イラストを入れれば、多様性と共生社会のイメージが直感的に伝わる。

- 清水委員：全体像を「木」で表現するアイデアに賛同する。また、現状の資料のイラストで女性（ピンク色の服）だけが介護や世話をしているような表現があるが、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）にならないようフラットな視点での配慮が必要。

■ 表現・文言の修正事項

- 事務局：「総合計画の全体像」ページの将来像が「幸せを感じる」となっているが、『ちょうどいい幸福田園都市』の反映漏れであるため修正する。
- 持田委員：政策説明の「農業、産業」は「農業、商工業」とすべき。「安全基盤」など「基盤」が重複しているため整理が必要。また、政策の名称は標準的なカテゴリー名にした方が分かりやすい。
- 酒井委員：基本目標4（魅力向上）の説明に「歴史・文化」の文言を追加してはどうか。また、将来像の『関わり』というキーワードを、基本目標の中にも盛り込みたい。
 - 事務局：ご指摘の文言修正を行う。歴史や文化については、基本構想の下層の「基本計画」の中で具体的な施策としてうたっていく。

【議題3】その他

- 持田委員：新計画の前に、第4次総合計画の評価や現状の課題を示すページがないと、なぜこの新計画が必要なのかが伝わりにくいのではないか。
 - 事務局：基本構想は大きなビジョンを示すものであるため今回は記載していないが、下層となる「基本計画」において、前計画の評価や課題をしっかりと記載し、次の施策に繋げていく。
- 酒井委員：アンケート結果を見ると、「交通の便が悪い」という声が上位にある一方で、「良い」と答える層もあり、評価が両極端に分かれている（混在している）ように見受けられる。町としてこの結果をどう捉え、判断していくのか。
 - 事務局：単純な全体の回答結果だけでなく、住んでいる地区（駅周辺の徒歩圏内か、駅から遠いエリアか）や、年代・ライフスタイル（現役世代のマイカー利用者か、高齢の単身者か）といった属性をクロス集計して詳細に分析を行う。その結果を全庁で共有し、偏りのない交通政策や道路整備などの具体的な施策へ反映させていく。

【閉会】

- 上村会長：本日は見せ方や表現の分かりやすさについて大変有意義な意見が出た。これらを踏まえ、事務局にて基本構想案のブラッシュアップをお願いしたい。
- 事務局（藤本課長）：委員各位の熱心な議論に感謝申し上げます。本日いただいた意見を踏まえ、庁内策定委員会等で練り上げ、次回はパブリックコメント実施に向けた案をご提示する。
- 次回（第3回審議会）は、5月15日（金）午前10時より同会議室にて開催予定であることを案内し、閉会。